

11月16日 ゲスト卓話



2017-2018年度 地区米山記念奨学部門委員長 金杉 豊 様 (八潮ロータリークラブ)

本日は卓話にお招きいただきありがとうございます。
申し遅れましたが、八潮RCより出向しております。米山記念奨学部門4年目で本年度部門委員長を務めさせていただいている金杉豊と申します。宜しく申し上げます。

本年度米山記念奨学部門では、井橋吉一パストガバナー(越谷RC)を担当諮問委員に迎え、部門委員長である私を筆頭に、吉田耕之委員長(大宮シティRC)を中心とした増進委員会 6名、宗像英明委員長(大宮南RC)を中心とした学友・選考委員会 8名、この2つの委員会を組織し、計 16名で一年間活動を行っております。約1ヶ月に1回委員会および奉仕活動を行っております。

当部門の目的は、一つとして寄付の増進を図ることです。では、なぜ寄付の増進をしなくてはならないのか? 2770地区は現在 73クラブあります。その内、学生の受入れを希望するクラブは毎年50~55程度ある中で約6割のクラブの要望にしか応えられない状況であります。

(2017学年度、継続9名・新規25名・計34名)、米山記念奨学事業は皆様ご承知のとおり日本ロータリー独自の事業であり、RIの月間テーマにはなく、日本のみの月間であり一昨年から10月だけのところを3月に2回目の月間を設け、更なる増進を図るための活動をしています。

当地区では故濱野パストガバナー一年度より個人平均寄付額目標25,000円(普通寄付:5,000円・特別寄付20,000円)と設定し一昨年度は26,870円、昨年度は24,498円で、毎年全国でも上位の実績を残しております。因みに6月の米山記念奨学会の理事会に於いて、2018学年度の当地区(中川年度)の奨学

生数は継続性を含め35名の採用となっています。

(※2,018学年度全国で820名:地区選考785名)

因みに八潮みらい RC の過去 3 年間の寄付状況は、次の通りです。

2017年6月30日締(24名)※1

総額370,000 個人平均15,417(61.67%)※2 寄付者率25%※3

2016年6月30日締(25名)※1

総額230,000 個人平均 9,200(36.80%)※2 寄付者率24%※3

2015年6月30日締(23名)※1

総額267,500 個人平均11,630(46.52%)※2 寄付者率9.6%※3

※1. 各年度1月1日会員数 ※2. 個人平均目標達成率です。

※3. 2018学年度からの採用数に加味されます

米山奨学事業の意義

1999年より米山奨学生の対象を「救貧型」から「知的貢献型」へと転換し、人物の優秀性を重視しています。将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動のよき理解者となる人材を育成すること。これは、ロータリーの目指す『平和と国際理解の推進』そのものです。

■米山の寄付金

普通寄付 ・ ・ 日本のロータリアンからクラブを通じて定期的にする寄付。

各クラブで決定した金額×会員数分を半期ごとに分けて送金しています。

当地区では、現在年間、一人5000円と決まっています。

普通寄付の必要性、1967年財団法人設立の認可を受ける際に運営するには安定した財源を確保するよう指導があったため。

特別寄付 ・ ・ 個人、法人、クラブから普通寄付以外に任意で行う寄付。

金額には決まりはありません。ロータリアン以外でもOKです。

※現在は普通寄付も、特別寄付と同様に税制優遇がうけられるようになりました。

2770地区の寄付実績と受入れ奨学生の数

※各地区の採用奨学生の数、3年前の各地区の寄付実績に応じて割り当てられます。

過去10年の実績

2009～10年度	5,750万円	
2010～11年度	5,606万円	奨学生 37名
2011～12年度	5,546万円	奨学生 36名
2012～13年度	5,993万円	奨学生 33名
2013～14年度	6,013万円	奨学生 30名
2014～15年度	6,703万円	奨学生 28名
2015～16年度	<u>6,953万円</u>	奨学生 31名
2016～17年度	6,381万円	奨学生 31名
2017～18年度		奨学生 34名
2018～19年度		<u>奨学生 35名</u>